

10年後の自分と、京都のまちの、
ミライとモンダイを考える。
京都市基本計画審議会

U35のメンバーが市民にわかりやすくレポートします！

傍聴記

vol.9

共汗部会 第2回すこやか部会

(「保健」「教育」「福祉」分野)

主な議事: 分野別方針<保健医療・子育て支援>の検討

開催日: 平成21年12月17日(木)

会場: こども相談センターパトナ



レポーター 松村 幸裕子さん

幼い頃から京都市の恩恵を受けて育ったものの、そういったサービスがすべての市民に知られていない、利用されていないことに疑問を抱く、26歳大学院生。

会議のポイント

POINT 1.

「健康に生きる」ために
私たちは何をしていくのか



京都らしい取組としての食育の展開と、市民がどのように健康を自覚していくか。保健分野は国の施策との絡みがあるため、京都独自の視座を持っていこうとの議論がなされたのが印象的でした。

POINT 2.

みんなで「育ち」を支援！
育て育てられ、を地域で実践



子育てのみならず、親育て、老人育てなど、地域の中で生きる人たち同士が相互に先行くモデルになりながら、育て育てられていくようなまちになっていければという議論に共感しました。

この会議を傍聴して、 松村さんが思ったこと。

2時間という短い時間の中で扱う内容がとても多いなと感じました。今回の部会では、保健・子育て支援分野の今後10年間の方向性を決めることが議題であったはずですが、どちらかという委員それぞれの立場からの具体的な施策内容への提案が多く、まとまりきらなかったな、という印象です。ですが、その中で山折委員から、人生50年時代から80年時代への急速な変化に、社会がついていけておらず、そのために起こっている問題が多いという指摘がなされ、これから何十年のことを考えていくために、これまでの何十年、何百年の社会の歩みを分析する必要性を感じました。

私ならこうする！ 未来の京都に向けた松村さんの提案

人々がすこやかに生きていくために、地域での横の繋がりやコミュニティ化されたものが必要であることが自明になってきました。そこで、提案したいのは、呼び込まなくても人がやってくる地域の学校や病院、また地域の寺社仏閣などで、サロンのような誰でも参加でき、お互いを知り合えるような取り組みを週に数回、定期的に継続的におこなっていけないか、ということ。わざわざどこかで限定的に場を開くのではなく、年代や性別、所属にとられない人がやってくる場所に「場がある」という状態にしてしまうことが、地域コミュニティ再生への第一歩になると思います。

U35については、こちらをご覧ください。⇒ <http://www.city.kyoto.lg.jp/sogo/page/0000071812.html>

今年は10年に一度の、京都市の10年後を考える年です。
市政をよく知り、よく考え、利用し、参加し、仲良くなろう

発行:京都市 編集:未来の担い手・若者会議U35

